



# 天方地区中学生以上全住民 アンケート結果について

株式会社 政策基礎研究所

## アンケート回答者属性（全体の票数：848票）

### <性別>

1.男性	408	(48.1%)
2.女性	418	(49.3%)
無回答	22	(2.6%)

### <年齢>

1.10歳代	62	(7.3%)
2.20歳代	76	(9.0%)
3.30歳代	61	(7.2%)
4.40歳代	90	(10.6%)
5.50歳代	136	(16.0%)
6.60歳代	151	(17.8%)
7.70歳代	136	(16.0%)
8.80歳代	103	(12.1%)
9.90歳以上	23	(2.7%)
無回答	10	(1.2%)

回答者の年代は、60歳代が最多の17.8%で、50～80歳代で62.0%を占めた。

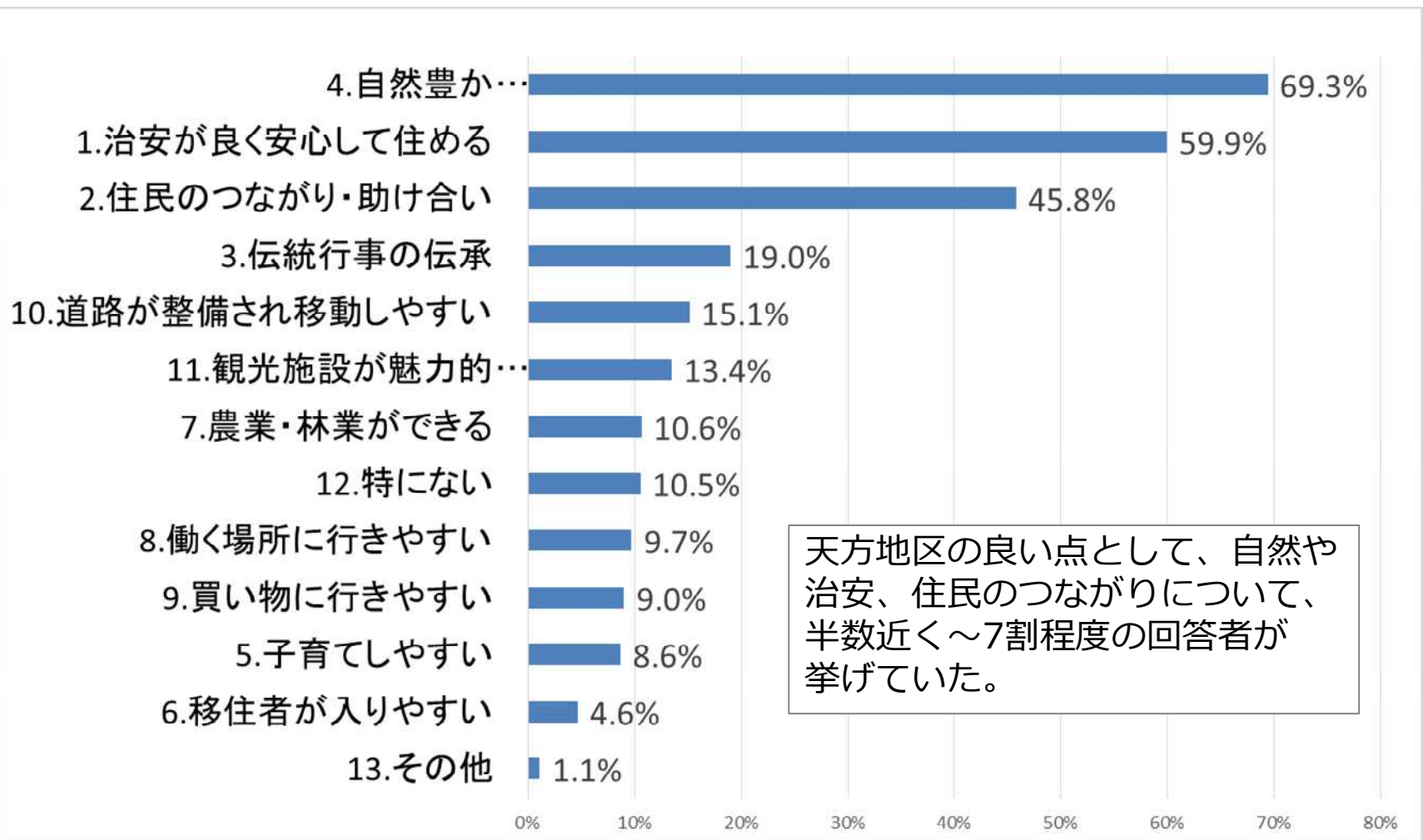
### <お住まいの町内会>

1.大鳥居	225	(26.5%)
2.葛布	47	(5.5%)
3.西俣	170	(20.0%)
4.黒石	154	(18.2%)
5.問詰	89	(10.5%)
6.鍛冶島	102	(12.0%)
7.亀久保	38	(4.5%)
8.嵯塚	1	(0.1%)
無回答	22	(2.6%)

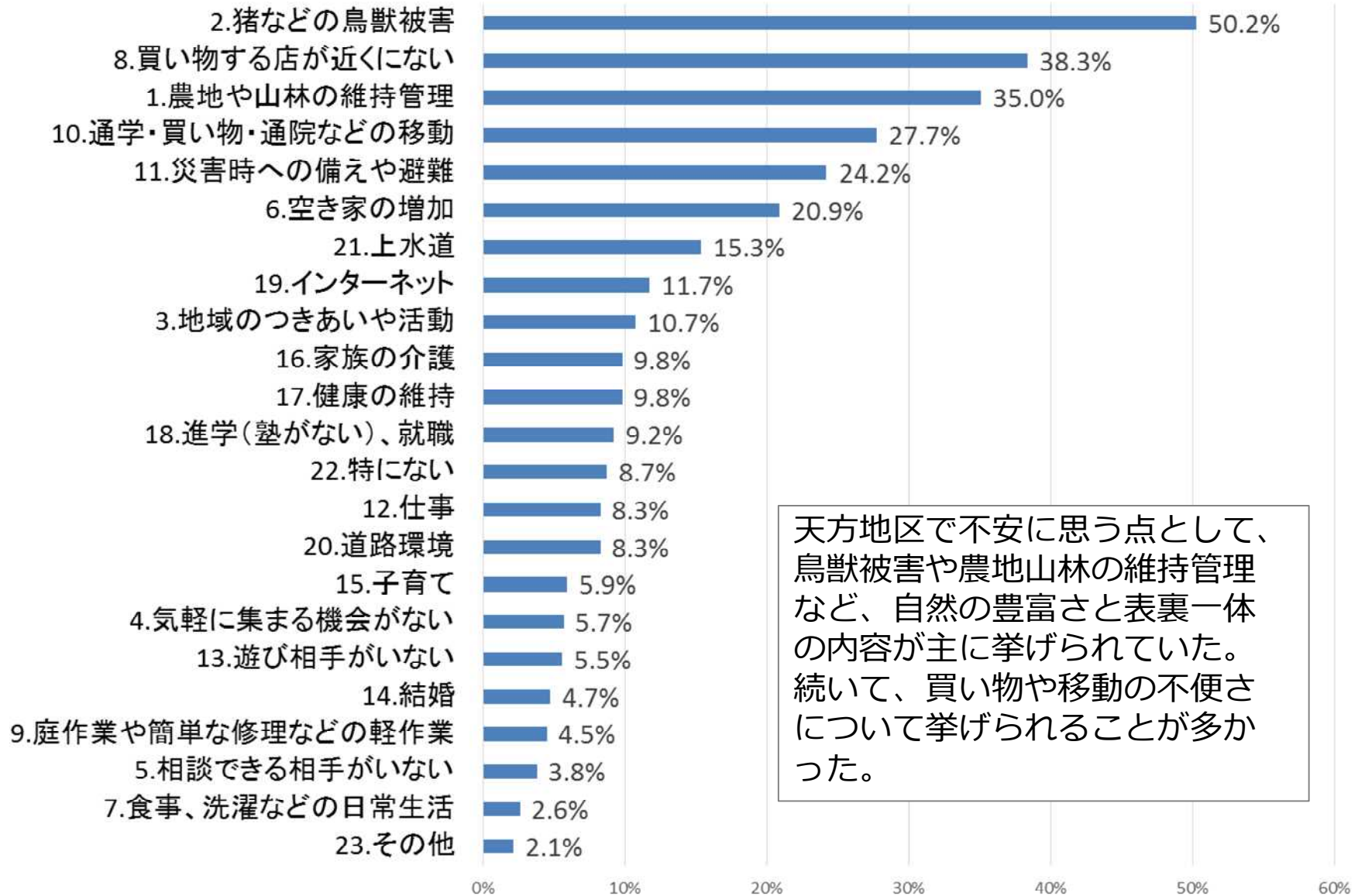
### <職業>

1.農業、林業	71	(8.4%)
2.自営業	59	(7.0%)
3.会社員・団体職員	204	(24.1%)
4.公務員	26	(3.1%)
5.会社役員	23	(2.7%)
6.専業主婦（夫）	63	(7.4%)
7.生徒、学生	68	(8.0%)
8.パート、アルバイト	119	(14.0%)
9.無職	206	(24.3%)
10.その他	15	(1.8%) <sup>2</sup>

# 天方地区に住んでいて、あなたが良いと思う点（全体の票数：848票）



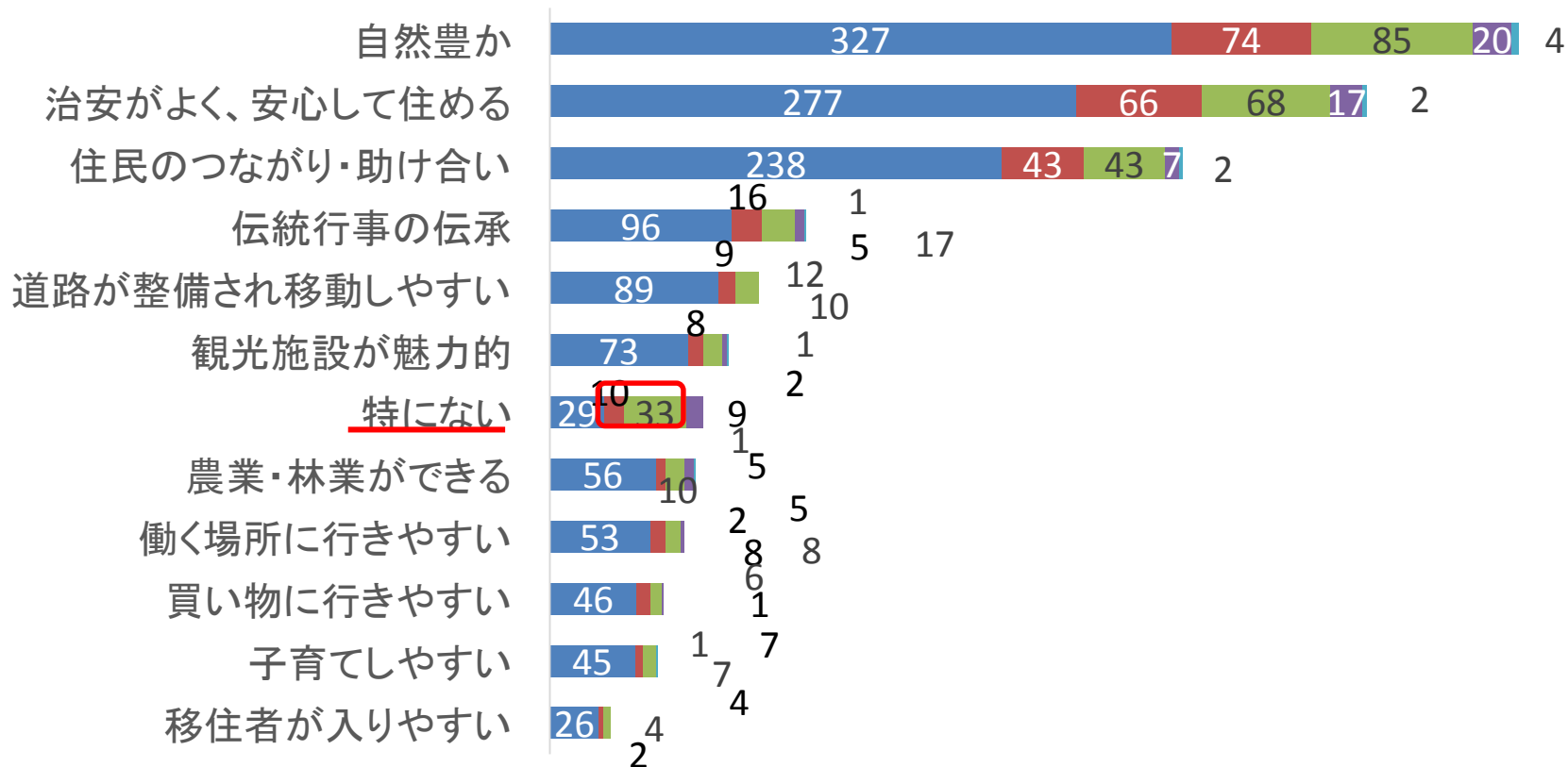
# 天方地区に住んでいて、あなたが不安に思うこと（全体の票数：848票）



天方地区で不安に思う点として、鳥獣被害や農地山林の維持管理など、自然の豊かさや表裏一体の内容が主に挙げられていた。続いて、買い物や移動の不便さについて挙げられることが多かった。

「天方地区の良い点」別の  
「天方地区に住み続ける予定」の割合（回答者690名 複数回答あり）

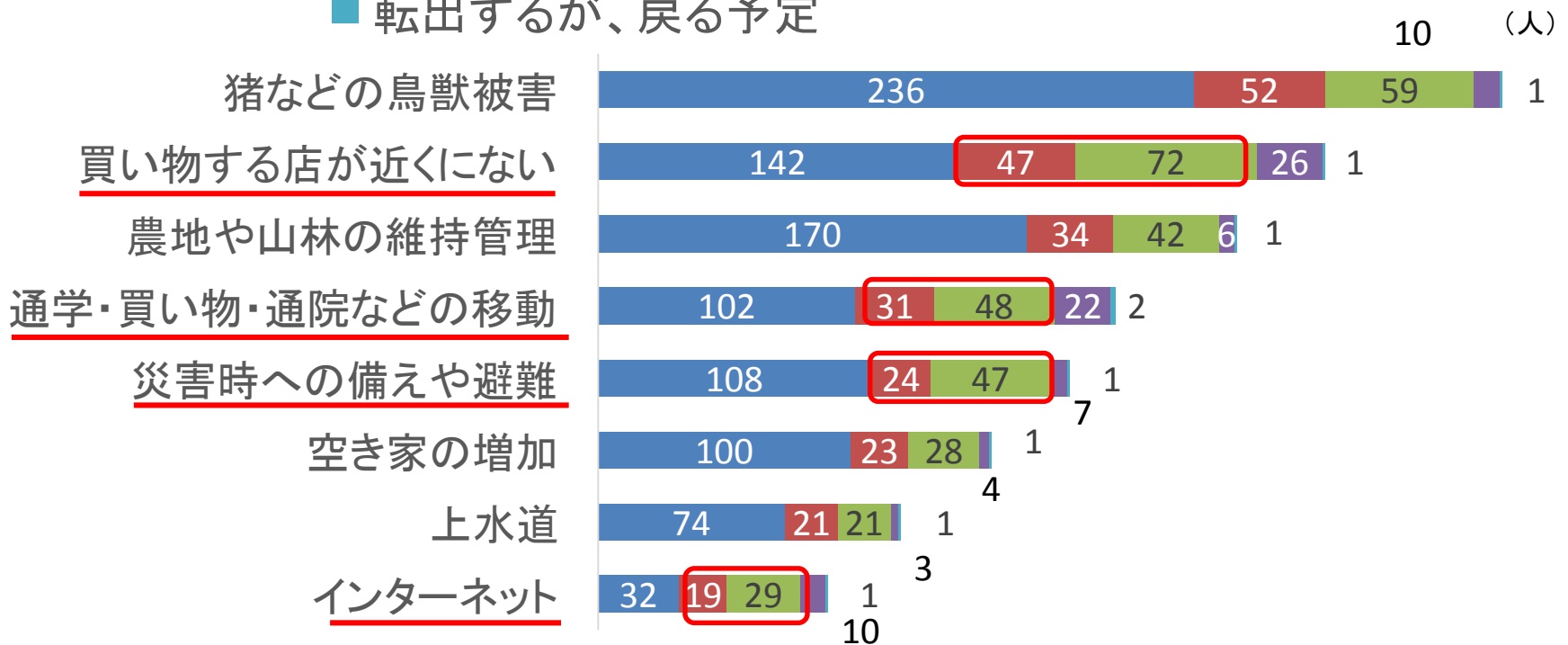
- 住み続ける予定
  - 転出するかもしれない
  - わからない
  - 転出予定
  - 転出するが、戻る予定
- (人)



「特にない」の割合は全体の12%であった。「特にない」の回答者の中で「転出するかもしれない」「わからない」割合は53%であった。

「天方地区に住んでいて不安なこと、困っていること」別の  
「天方地区に住み続ける予定」の割合（回答者683名 複数回答あり）

- 住み続ける予定
- 転出するかもしれない
- わからない
- 転出予定
- 転出するが、戻る予定



「買い物する店が近くにない」「通学・買い物・通院などの移動」「災害時への備えや避難」の回答者の中で「転出するかもしれない」「わからない」割合は約40%、「インターネット」の回答者の中では約50%であった。

「天方地区に住んでいて不安なこと、困っていること」別の「天方地区に住み続ける予定」の割合（回答者683名 複数回答あり）（続き）

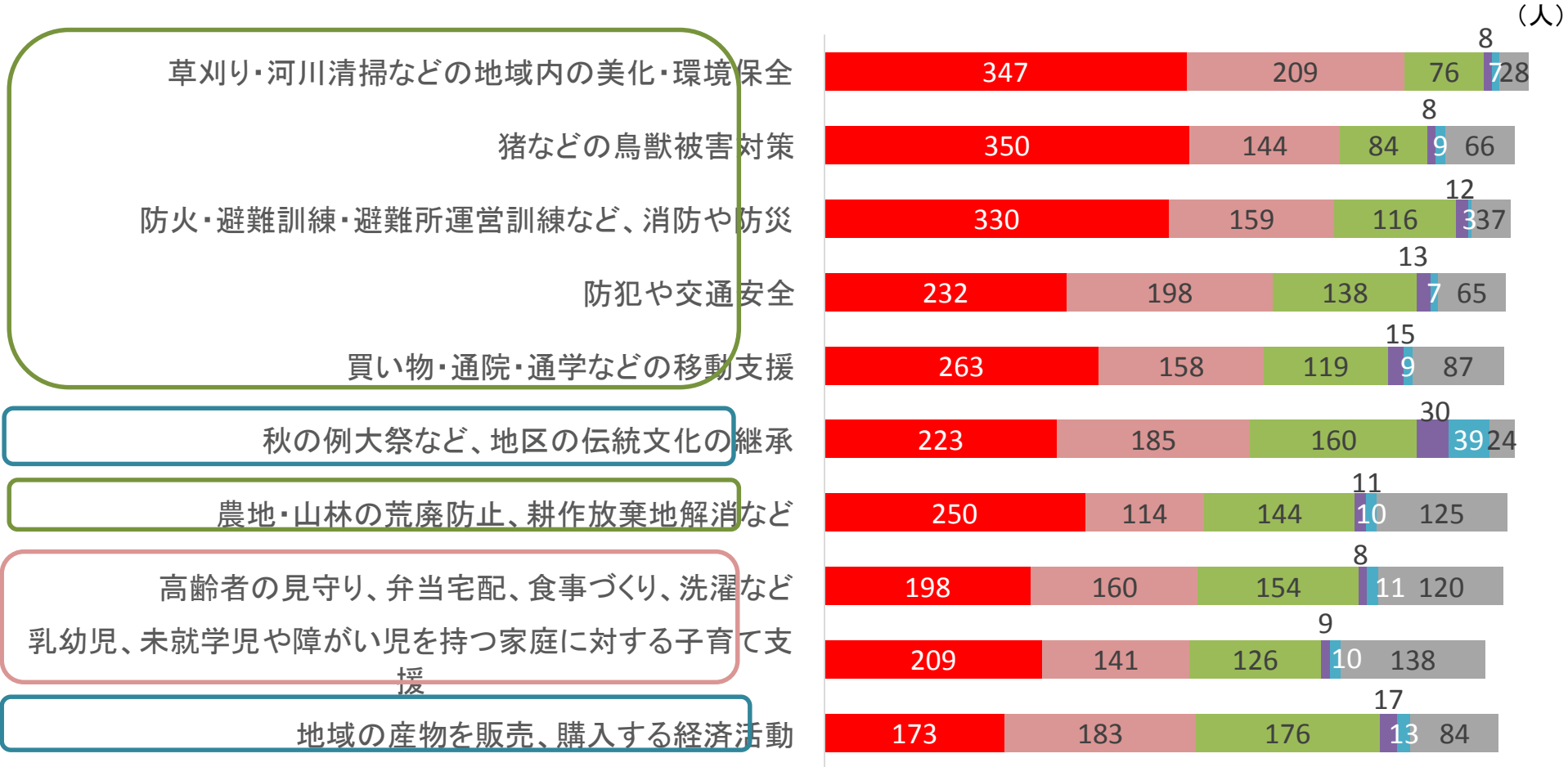
- 住み続ける予定
  - 転出するかもしれない
  - わからない
  - 転出予定
  - 転出するが、戻る予定
- (人)



「転出するかもしれない」「わからない」割合は「地域のつきあいや活動」の回答者の中で約60%、「家族の介護」「仕事」の中では約50%、「進学、就職」「道路環境」の中では約40%であった。

# 「天方地区での活動」別の「重要度」の割合

■ 重要 
 ■ やや重要 
 ■ どちらともいえ 
 ■ あまり重要でない 
 ■ 重要でない 
 ■ 活動内容がわからない

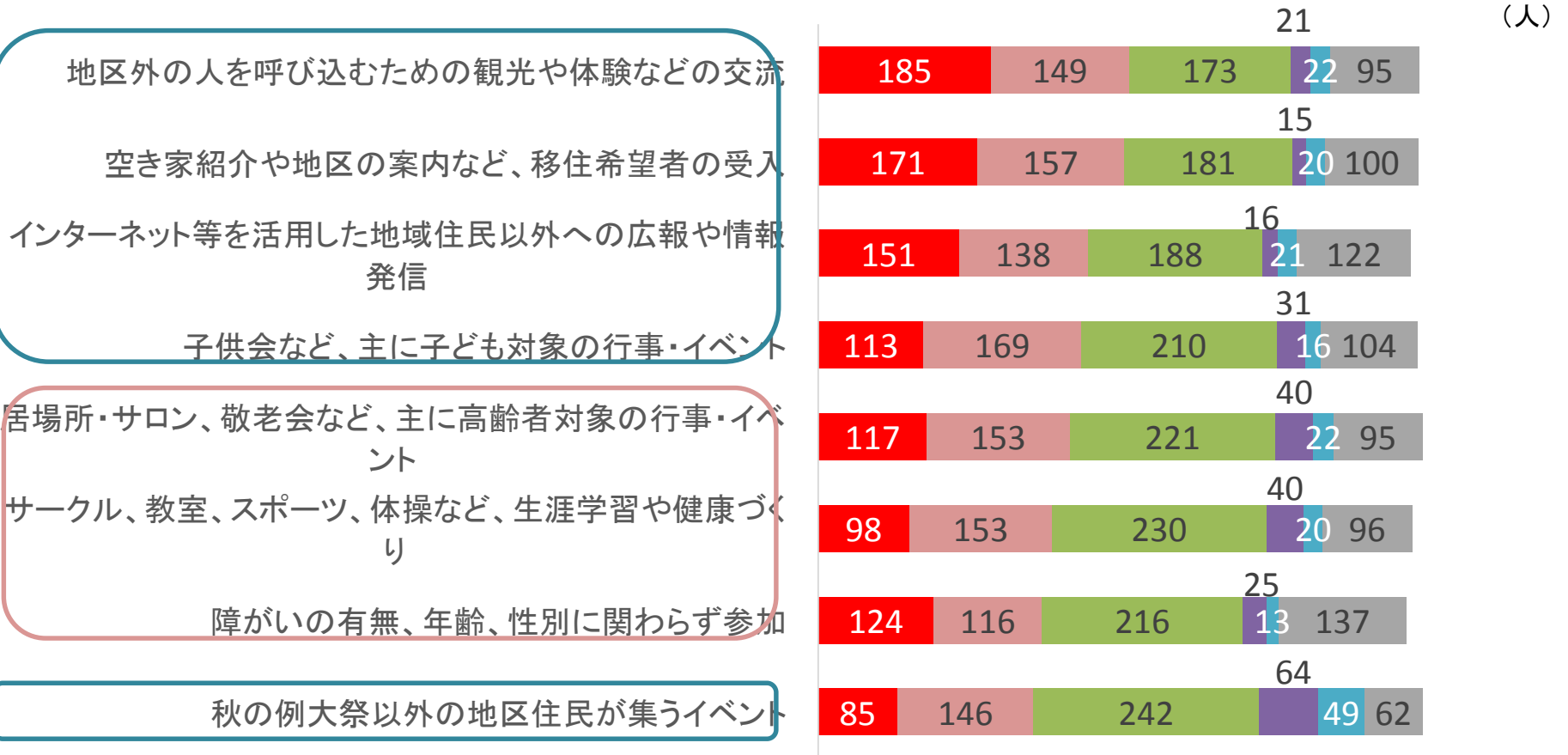


重要度の高い項目は、居住環境の整備、続いて子育て・介護予防や文化的・経済的活動があげられた。



# 「天方地区での活動」別の「重要度」の割合（続き）

■ 重要 
 ■ やや重要 
 ■ どちらともいえ 
 ■ あまり重要でない 
 ■ 重要でない 
 ■ 活動内容がわからない



重要度の割合が中央～低い項目は、子育て・介護予防や文化的・経済的活動が多かった。

## 「天方地区での活動」別の「満足度」の割合

■ 満足 ■ やや満足 ■ どちらともいえない ■ やや不満 ■ 不満 ■ 活動内容がわからない (人)

草刈り・河川清掃などの地域内の美化・環境保全

143 218 177 41 27 44

秋の例大祭など、地区の伝統文化の継承

146 179 226 35 14 50

防火・避難訓練・避難所運営訓練など、消防や防災

67 155 270 57 25 66

防犯や交通安全

57 139 279 31 25 109

秋の例大祭以外の地区住民が集うイベント

75 92 296 45 17 110

地域の産物を販売、購入する経済活動

45 96 257 53 20 154

猪などの鳥獣被害対策

42 92 197 78 112 121

居場所・サロン、敬老会など、高齢者対象の行事・イベント

39 62 287 29 18 196

サークル、教室、スポーツ、体操など、生涯学習や健康づくり

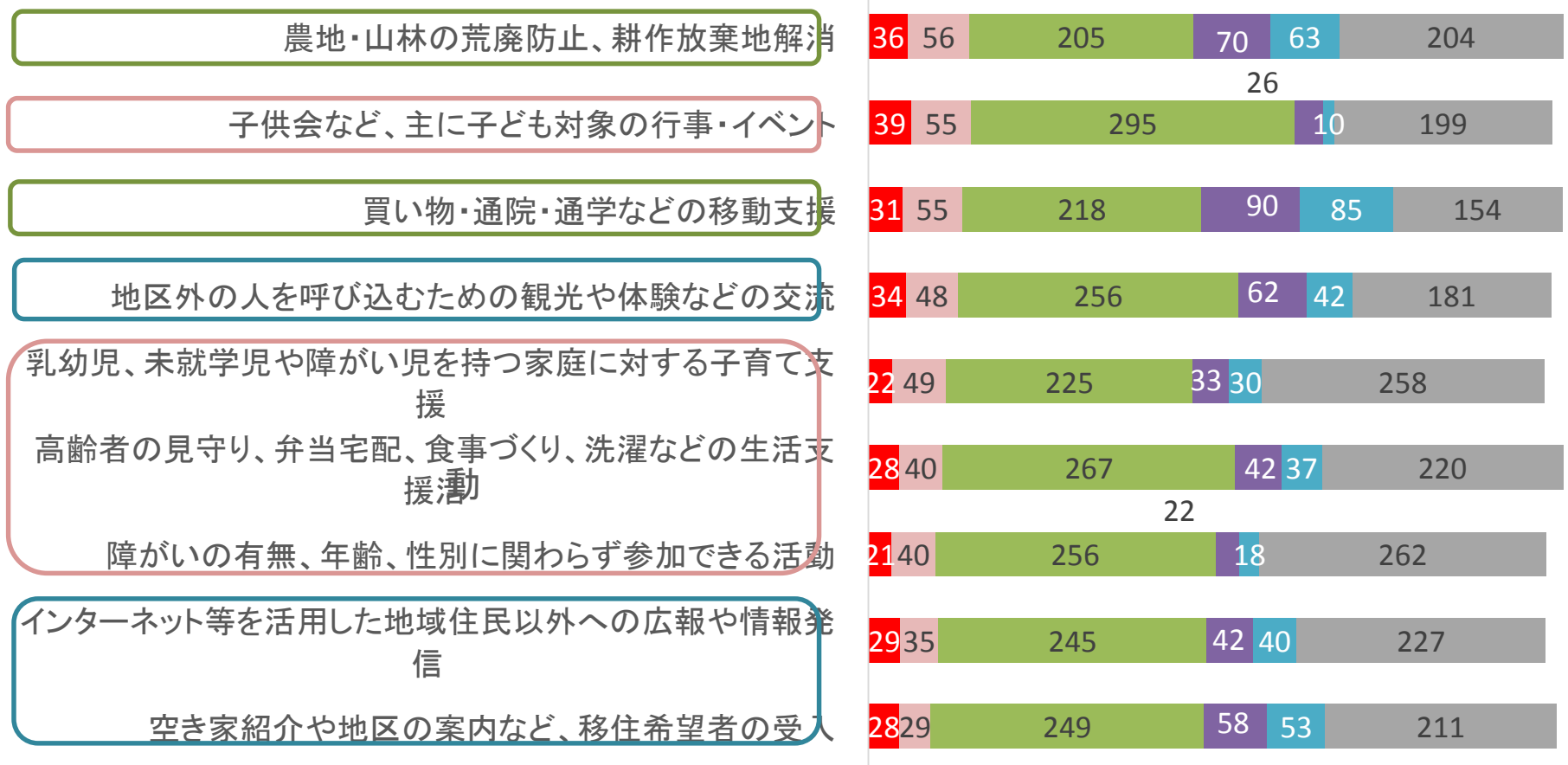
30 68 288 30 18 188

満足度の高い～中央の項目は、居住環境の整備や文化的・経済的活動があげられた。

## 「天方地区での活動」別の「満足度」の割合（続き）

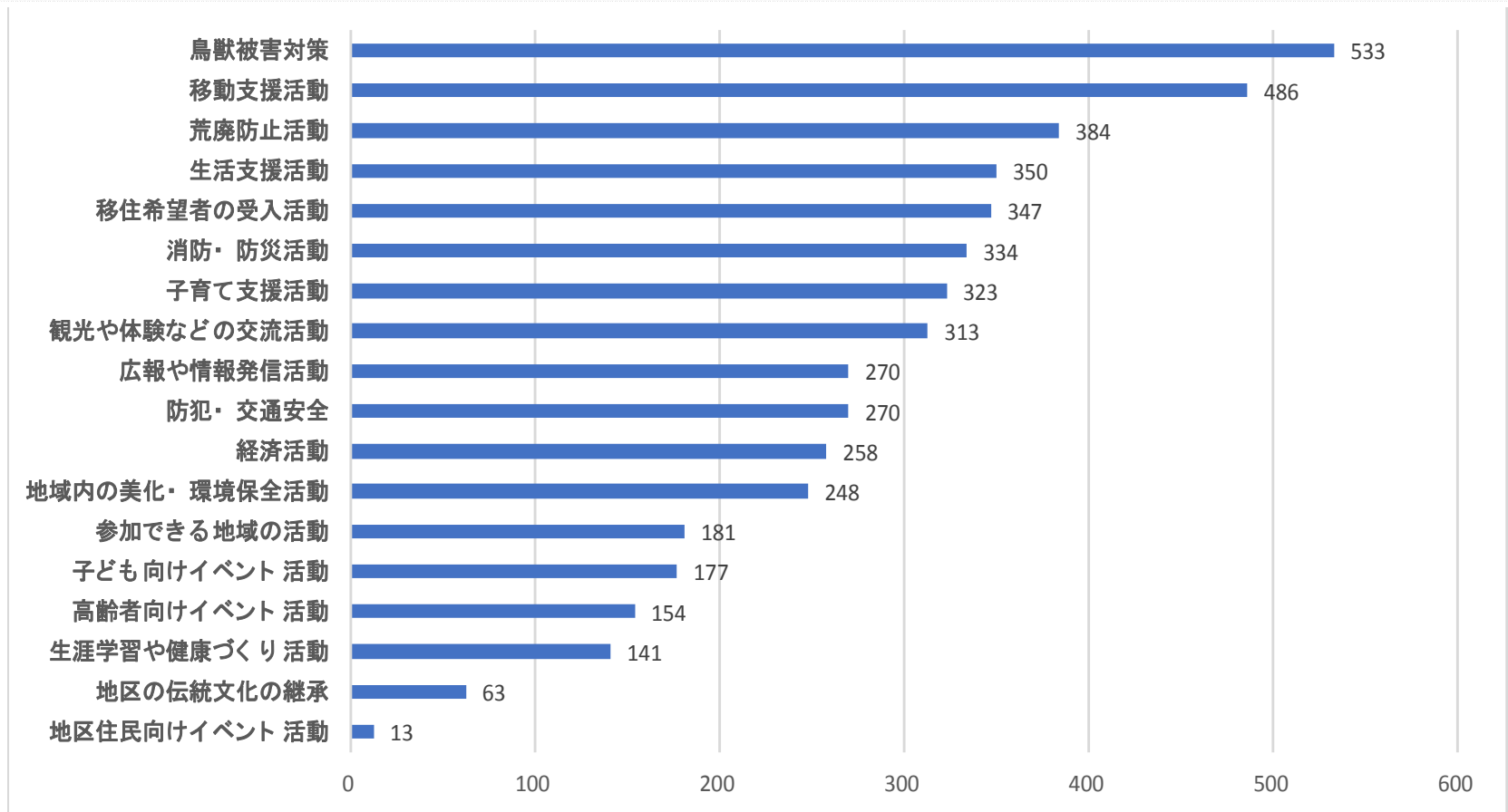
■ 満足 ■ やや満足 ■ どちらともいえない ■ やや不満 ■ 不満 ■ 活動内容がわからない

(人)



満足度の割合が低い項目は、子育て・介護予防が多く、次に居住環境の整備や  
文化的・経済的活動があげれた。

## 地域で不足度の高い活動



(重要度) 重要である/やや重要である：1点

(重要度) あまり重要でない/重要でない：-1点

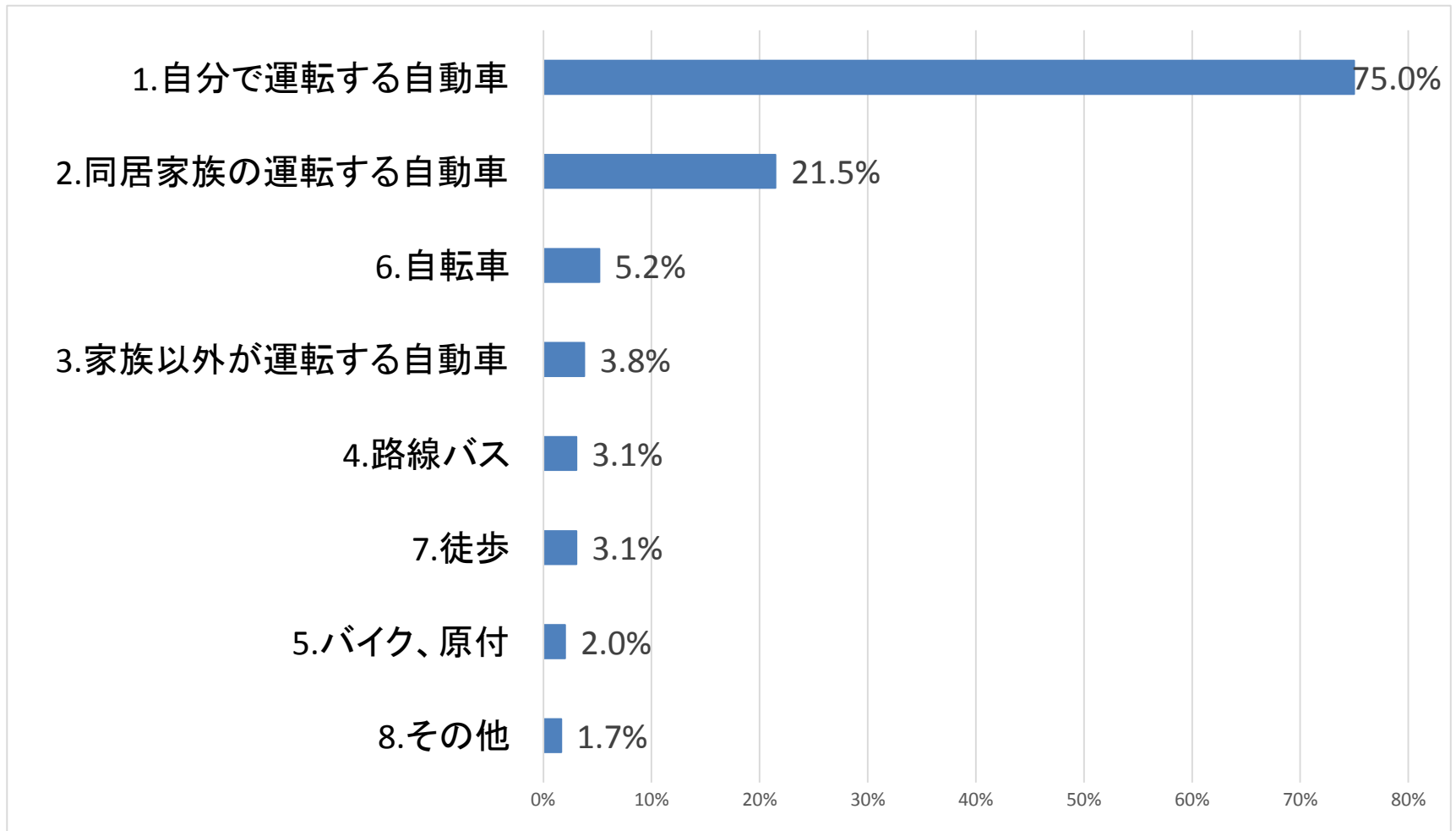
(満足度) 満足・十分活動している/やや満足している：1点

(満足度) やや不満である/不満である 活動が足りない：-1点

(共通) どちらともいえない/活動内容が分からない：0点

として、(不足度) = (重要度) - (満足度) として集計

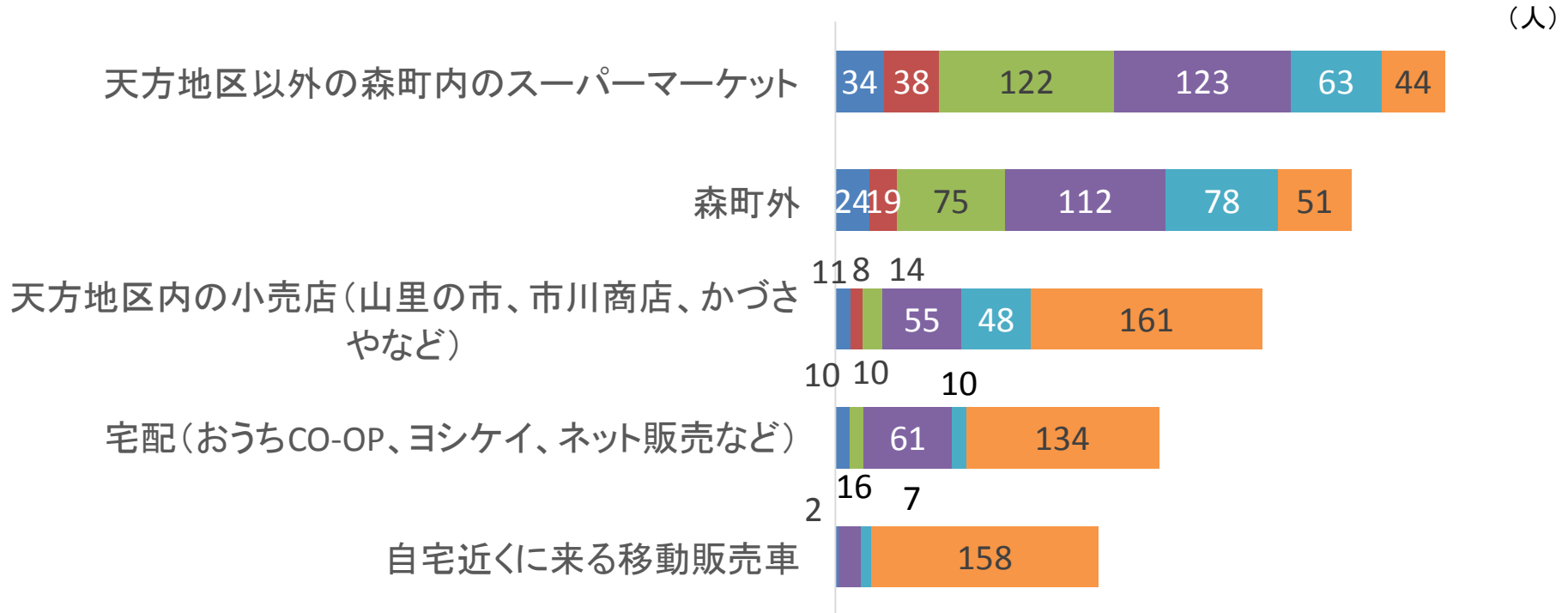
## 日常的な移動手段（全体の票数：848票）



日常的な移動手段としては、本人もしくは家族等が運転する自動車としている回答者が大半を占めていた。

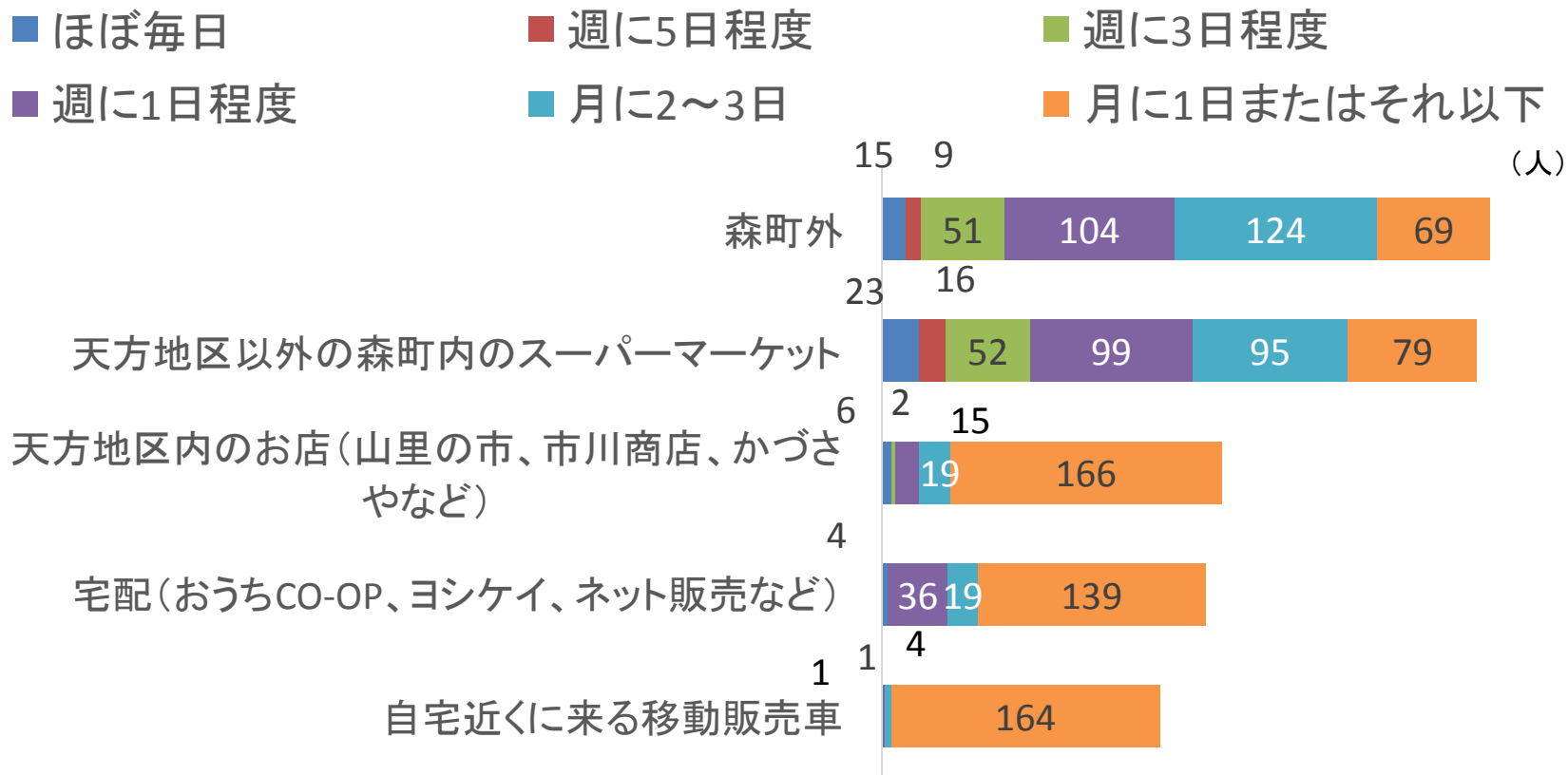
## 「食料品を買い物する場所」別の 「買い物の頻度」の割合（複数回答あり）

- ほぼ毎日
- 週に5日程度
- 週に3日程度
- 週に1日程度
- 月に2～3日
- 月に1日またはそれ以下



「天方地区以外の森町内のスーパーマーケット」で買い物する頻度が回答全体（1488回答数）の28%と最も高く、週1回以上利用する割合も高かった。移動販売車の利用は全体の12%と最も低かった。

## 「日用品を買い物する場所」別の 「買い物の頻度」の割合（複数回答あり）



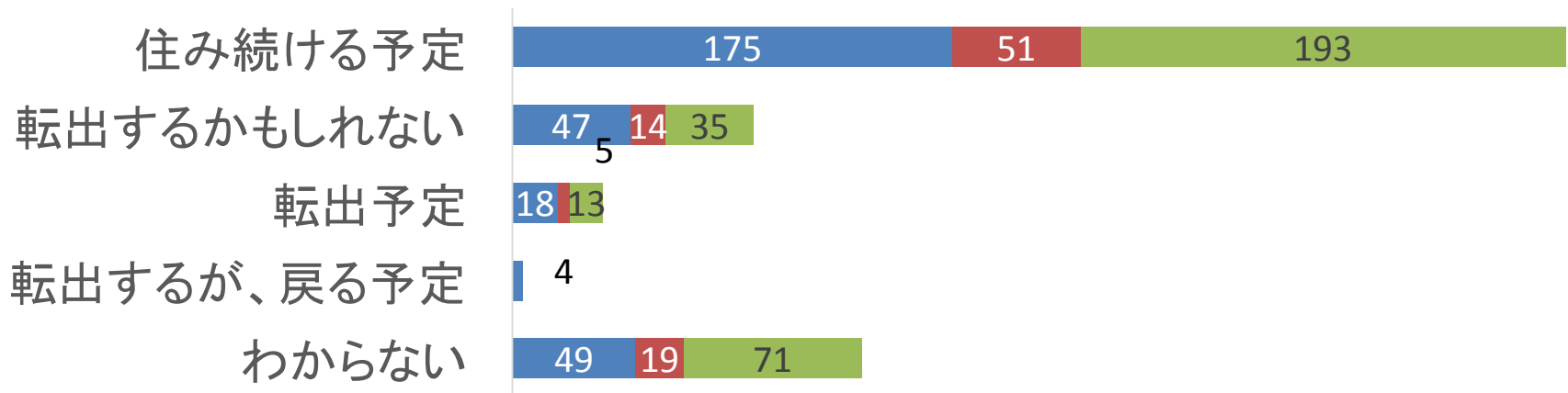
「森町外」で買い物する頻度が回答全体（1312回答数）の28%と最も高かった。週1回以上利用する割合は、「天方地区以外の森町内のスーパーマーケット」「森町外」とも高かった。移動販売車の利用は全体の13%と最も低かった。





「天方地区に住み続ける予定」別の  
「天方地区に暮らすようになった経緯」の割合（回答者694名）

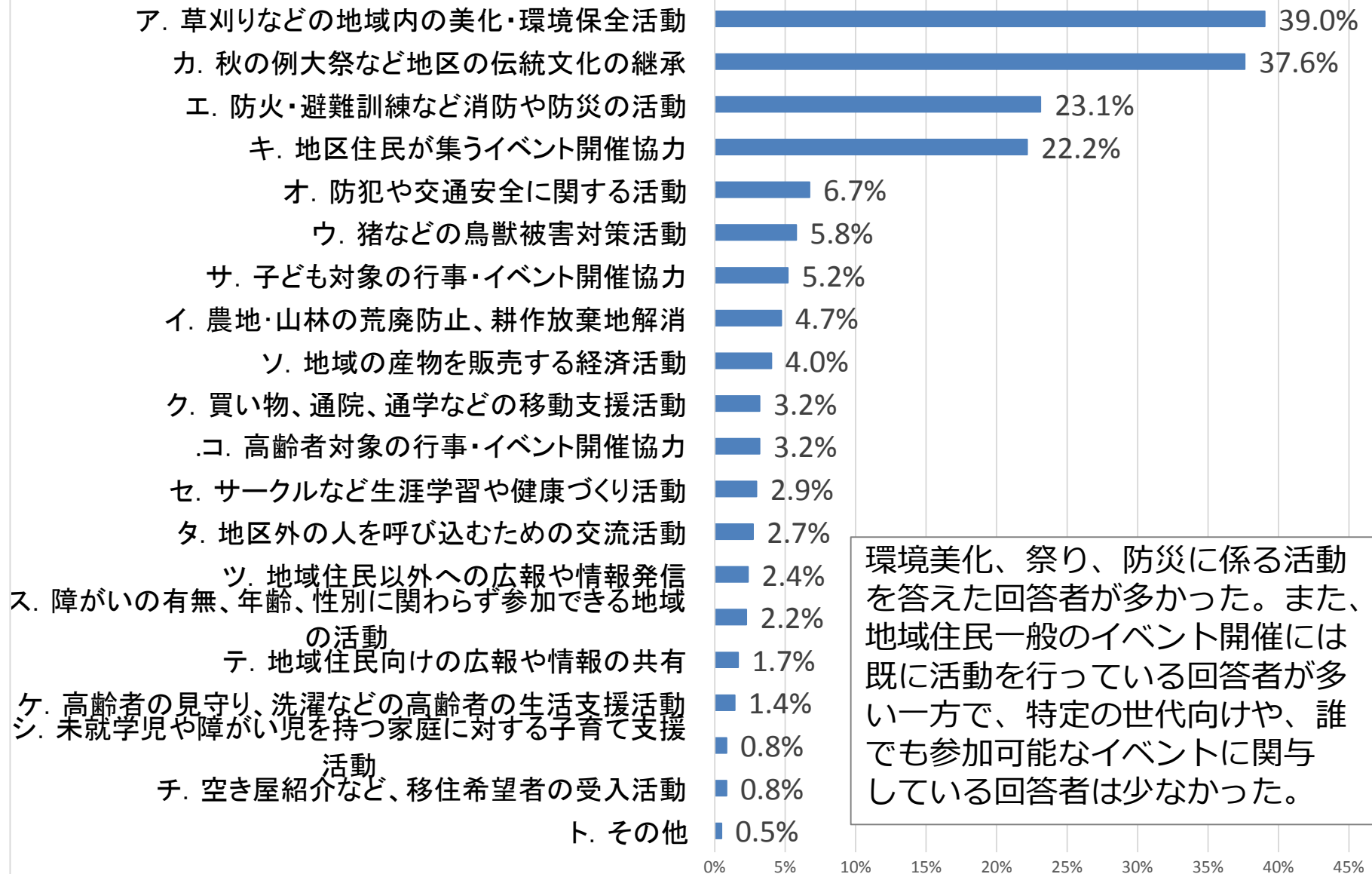
- 生まれも育ちも天方地区
  - 生まれや育ちは天方地区だけど、大学・就職等で一旦他で暮らし、天方地区に戻って現在にいたる
  - 生まれや育ちは天方地区ではないが、今は、天方地区で暮らしている
- (人)



「住み続ける予定」の割合は全体の60%であった。「転出するかもしれない」「わからない」割合は全体の34%であった。

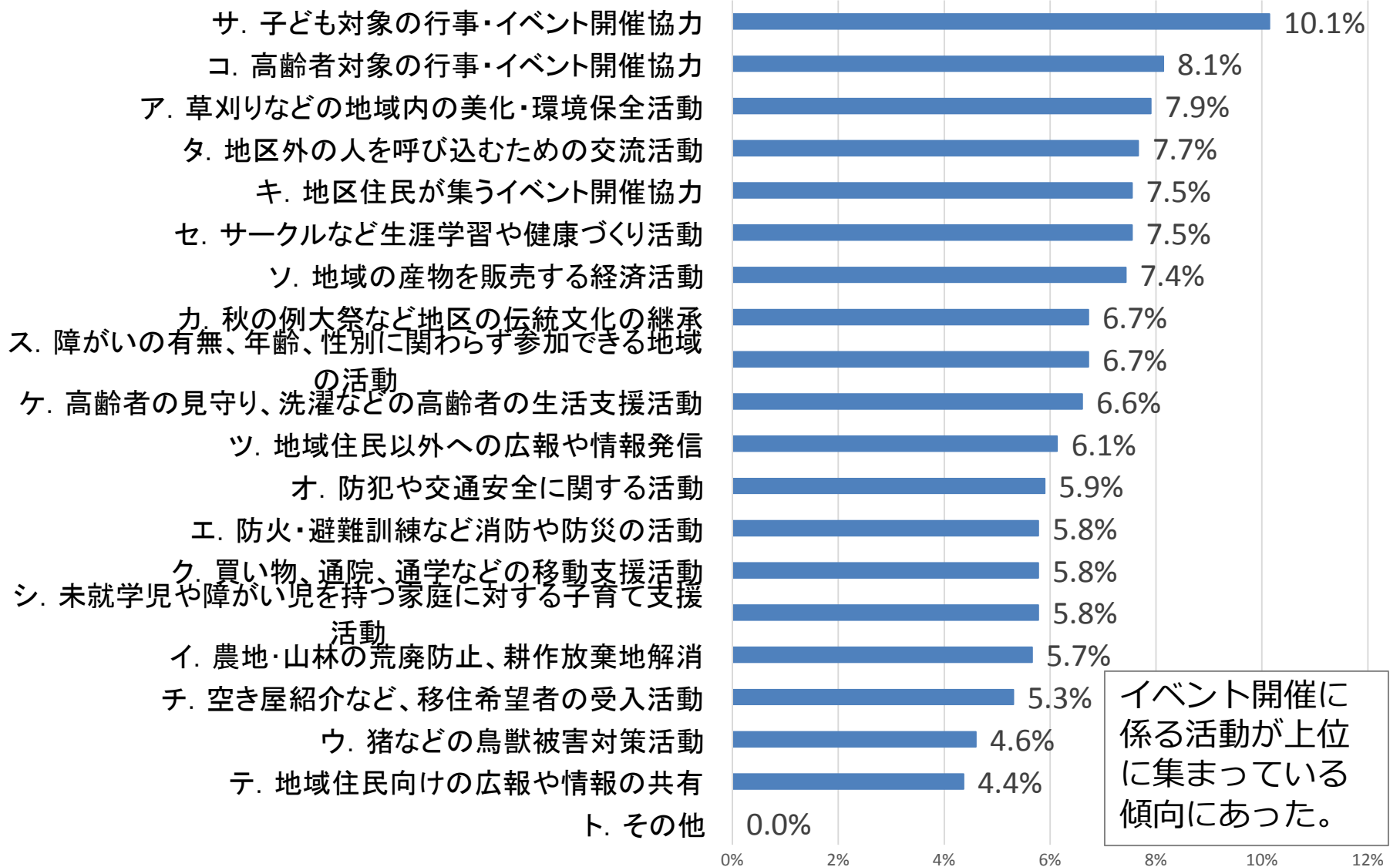
天方地方の出身かどうかで、住み続ける予定は大きく異なることはなかった。

## 行っている活動（全体の票数：848票）



環境美化、祭り、防災に係る活動を答えた回答者が多かった。また、地域住民一般のイベント開催には既に活動を行っている回答者が多い一方で、特定の世代向けや、誰でも参加可能なイベントに関与している回答者は少なかった。

# 行ってみたい活動・協力できる活動（全体の票数：848票）



イベント開催に係る活動が上位に集まっている傾向にあった。

- 地区で優先して取り組む課題として、鳥獣被害対策、移動支援、農地山林荒廃防止、移住希望者の受け入れ活動が上位に挙がる  
⇒鳥獣や木材・竹などの有効活用を行うと共に、それを地域の魅力として発信
- 子ども・高齢者などを対象とするイベントや、地区外の方との交流、生涯学習や健康づくり活動で活動希望者が多く、それらを現状行っている者は少ない  
⇒上記以外の地域で採れる食材や森林資源、歩行や運動に適した場所を使つての活動
- 不足度の高い活動は、上記で挙げたもの以外では、防災関連や高齢者の支援活動など  
⇒上記の活動も交えて、非常時に助け合いのしやすい地域環境づくり